

卯花園漫録

自序に文化六（1823年）。石上宣績著。その三巻で『甲陽軍鑑』中の信玄の戸隠願文に触れている。

甲陽軍艦に長沼に城を築れし時、判兵庫に信州水内郡にて百貫の地を與へ、信州戸隠にて密供を修す。爰に北越の輝虎世に讒臣を企つと、此次切れて見え
ずと記せり、永禄十一年謙信戸隠山にて、謙信を信玄呪咀直筆の書を見て打笑ひ、弓箭とる身の恥なり、末代の寶物にせよと、神職に云れし由語り傳ふ、今其書紀州高野山にありと云、事詳に書記せる物あり、實は謙信を恐るゝ事、虎のごとしとも云べきにや、

註 国書刊行会の『新燕石十種』第3所収の『卯花園漫録』による。『新燕石十種』第3は国会図書館デジタルコレクションに画像（DOI 10.11501/949635）

があり、該当個所は183コマ目。